

地質ニュース

第656号 2009年4月


口 絵

地質情報展2007北海道	吉田 朋弘	1		
日本の機窓から(1), 北アルプスと白山	須藤 茂	5		
九州の火山・地熱活動の時空変化とフィリピン海プレート				
スラブの沈み込みの関係-電子地球科学情報を利用した 簡易モデル化-シミュレーションによる検討-	茂野 博	10		
Excel VBA(オープンソース)による地球科学データの処理				
- (2) 標高・地質メッシュデータの組合せ図化を例にして-	茂野 博	29		
危険化学物質による環境汚染, その5				
-琉球列島サンゴ礁および隣接地域の農薬汚染-	北田 幸男・川幡 穂高・鈴木 淳・大森 保	39		
ベトナム・ハムタン 黒い砂チタンの採掘	山本 睦徳	45		
さわって心地よい岩石	田中 剛	49		
地質分野2008年秋の話題「バイオ燃料と食料問題, アジア太平洋地域の災害予測など」				
-英文ニュース誌から拾う-	高橋 裕平	53		
タイと日本の災害マネジメントワークショップ	村尾 智	60		
地質情報展2007北海道 「熱くゆたかなぼくらの大地」開催報告	吉田 朋弘	63		
地質情報展2007北海道 自然の不思議「鳴り砂」	兼子 尚知・羽坂なな子	69		
書評「プレートテクトニクスの拒絶と受容-戦後日本の地球科学史」			宮下 敦	71
お知らせ 地質調査総合センター関連の2009年スケジュール		72		
編集後記		73		

表 紙

穂高岳: 中央が奥穂高岳(3,190m)で、その左に西穂高岳、右に涸沢岳と北穂高岳、手前に前穂高岳を従えているように見えます。正面から朝日が当って高度感がありませんが、できている影で急峻さが想像できます。中央右下は、かつて氷河によって円く削られた涸沢で、最近雪が少ないのではないかと話題になっています。溶結凝灰岩と貫入岩とが侵食に耐えて残っている地形です。名古屋-花巻定期便、南東上空、高度約8,800mから2008年10月撮影。本誌口絵参照。

(写真・文: 須藤 茂¹⁾。1) 産総研 地質情報研究部門)

 産業技術総合研究所
地質調査総合センター

Geological Survey of Japan / AIST

〒305-8567 茨城県つくば市東1-1-1

Tel. 029-861-3754

Fax. 029-861-3746

<http://www.gsj.jp/>